ファイナル・レポート　２００３

EU’Vend　第１回　国際自動販売機メッセ

◆　成功裏に初回を飾ったドイツ初の自動販売機メッセ、業界を活気づける

異口同音に、「成果をあげた」－これが結論です。国際自動販売機メッセは大成功でした。ケルンで初めて開催された国際自動販売機メッセは、初回から出展者にもビジターにも説得力のあるものでした。だからこそ、「コンセプト、立地、枠組みがぴったり合っていた」という総括が一致して聞かれたのです。「どれをとっても事前の予想を上回っていました」ドイツ自動販売機連盟(bdv)のノベルト・モンセン理事の言葉もこれを裏付けています。「自動販売機業界はここケルンで、自覚をもったプロの力量を発揮してその地位を確立しました。よい雰囲気や、ブースでの重点的で実のある商談、多くの取引先の開拓によって、この分野が勢いづきました。」3日間にわたり 13 カ国 178 社が、自動販売機、販売機の中身商品（食品とノンフード）、オペレーションシステム、金銭システム、サービスを全ヨーロッパから集まったバイヤーに紹介しました。ビジターは 46 カ国約 3700 人を数え、その3分の1をドイツ国外から迎えています。国際自動販売機メッセはドイツ自動販売機連盟の構想に基づき、ケルン・メッセが開催します。

ケルン・メッセのヴォルフガング・クランツ取締役にとっては、自動販売機分野が成功裏に初回を飾ったことで、将来への重要な一歩が踏み出されたことになります。「私たちは、自分たちのコンセプト立ち上げが完全に間違っていないことが分かりました。ケルンで自動販売機独自のプラットフォームを創設しようという決定は、正しかったのです。興味深く、消費者のニーズにあったこの流通形態は、これからもまだまだ成長の可能性がありますよ。」国際自動販売機メッセは、一方で自動販売機メーカーと中身商品のメーカーの間を、また一方では流通企業と自動販売機を利用する潜在消費者との仲立ちをするものなのです。

国際自動販売機メッセの出展者である業界の中核企業や特殊技術を持った中小企業は、ビジターの専門性や国際性の高さにとくに目を見張っていました。「ここでは何より決定権を持ったビジターとの商談が持てました」とは、多数の企業を代弁したある企業の感想。しかも新規取引先が多かったことが繰り返し満足げに語られていました。利益をもたらす取引の締結がすでに現地で見られましたが、さらに大多数の出展者は、現地の投資意欲が見本市後に実を結ぶことに期待を寄せています。

ビジターはドイツを除くとおもにヨーロッパの隣国からの専門家で、とくに多かったのがオランダ、ベルギー、オーストリア、スイス。ポーランド、チェコ、ロシア、ハンガリーをはじ

めとする東欧からも多くの専門家が集まったことは、とくに喜ぶべき点でした。ここにこそ自動販売機分野の莫大な潜在力が秘められているからです。また、ブラジル、メキシコ、アメリカ、香港、日本のビジターまでもがビジターに名を連ねていました。

第１回国際自動販売機メッセで脚光を浴びたのは、幅広いサービスを提供する新型の自動販売機、各適用分野のトップデザイン、そしてとくに、データ通信や証明書・運転免許証・マネーカード用特殊読み取り装置といった電子技術を駆使した最先端製品です。またスパゲティ自動販売機などの華やかな新製品も、小規模であるものの、優雅な催しの一面を幅広い大衆向けに披露しました。「自動販売機業界のイメージが全く変わりました。エネルギーとノウハウを使って、ニッチ産業的な自動販売機そのものから抜け出たのです。」モンセン理事はこのように実感していました。

どこも快適なメッセ環境は、考え抜かれたブースの他に、ケルンの専門大学の学生による特別ショーによっても整えられました。「自動販売機の体験」をモットーに、新進の創作者たちが自動販売機を全く別の脈絡の中に置いたもので、美的で、ウインクしたくもなる討論でした。漁業技術社の見習い工が作った自動販売機は、その仕組みが具体的にわかるもので、こちらも3日間の国際自動販売機メッセでのハイライトの一つでした。

次回の国際自動販売機メッセは 2005 年 9 月 15 日(木)から17日(土)まで開催されます。